

和泉

11月号

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izu>

実るほど…

校長 中澤 道則

「実るほど 頭をたれる 稲穂かな」とは、皆様、ご存じの通り「人格的に優れた人であればあるほど謙虚である」という俳句（詠み人知らず）というより故事成語です。さて、先月の学校便りでも紹介した、その「稲穂」。今年はあまり雀に食べられることもなく右の写真のように見事に実りました。そこで10月14日に横山武夫さんのご指導のもと、5年生が稲刈りをしました。なれない鎌の扱いに四苦八苦しながらも無事に刈り終えて、今は体育館のギャラリーにはざかけして乾燥させているところです。この後もまだ脱穀、粳摺り、精米と、「美味しいごはん」になるまではまだまだ手間がかかります。昔から『米』という漢字は収穫までに八十八もの手間がかかる」という俗説もあります。その「手間」を味わうこともまた、体験的な学びなのだと思います。横山さん、ご指導ありがとうございました。



さて、「頭をたれる」といえば、下の写真をご覧ください。和泉小の子ども達の登校風景です。挨拶もまた「頭をたれる」動きを伴いますね。しかし、相手を見ながらおじぎをするとなんだか変な感じになってしまいます。そこで先月末、朝会で「語先後礼」の話をしました。「挨拶は言葉

を先にして、その後に礼をする」ということです。元々、しっかり挨拶することができる子は多かったのですが、10月に入って和泉小の子ども達の挨拶がさらに上手になってきました。しっかりと聞こえる声で挨拶する子、目を見て挨拶をする子、立ち止まって「語先後礼」を実際にやってくれる子…。和泉小の子ども達の「しっかり話を聞く態度」と、ただそれを「聞く」だけでなく実際に「行動に移す力」には感心しました。私が実際に見ているのは学校の中の子ども達の様子だけです。これが、学校を訪れる「職員以外の方」や、学援隊を始めとする学校を支えてくださる皆さん、そしてすべての「まち」の皆さんへと大きく、大きく広がり、このまちが今よりもっと挨拶の言葉で満ち溢れた「まち」になれば素敵だなと思っています。

50周年の今年、この「しっかりと挨拶することができる」ということが子ども達の文化として根付き、今から50年後、100周年の年にも「和泉小の子ども達の挨拶は素晴らしい」と言われるようになってくれば、と願っています。



週が明けると11月。2日には運動会も控えています。50周年記念の年ではありますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため制限を設けての開催となってしまいました。それでも子ども達は運動会に向けて楽しみながら、そして精一杯、練習に励んでいます。各ご家庭お一人の参観とはなりますが、何卒、趣旨をご理解の上、宜しくご参観いただきたく、お願い申し上げます。11月も教職員一同、子ども達が充実した学校生活を送ることができるよう、一層、力を尽くしてまいります。保護者、地域の皆様におかれましても引き続き宜しくご理解、ご協力を賜りたく、お願いいたします。